

## 南アルプスの花と森

### それぞれの地帯に生育する

南アルプスは森林限界が非常に高いことで知られ、標高 2,700 メートルまで森林が広がっています。これは、山の地質—たとえば土壌の保水力—と、夏には雨が多く、冬には降雪量が比較的少ない南に位置していることの両方によるものです。

森林は 4 つの地帯に明確に分かれています：低山帯 (800m まで)；山地帯 (800～1,600m)；亜高山帯 (1,600～2,700m)；高山帯 (2,700m 以上)。これらの各地帯には、異なる樹木群が生育します。低山帯には様々なカシヤタブノキ (*Machilus thunbergii*)、スダジイ (*Castanopsis*) からなる常緑広葉樹林が広がっています。山地帯にはニッコウモミ、ツガ、ブナなどの樹木が生い茂ります。亜高山帯では、コメツガやシラベなどの常緑針葉樹が茂ります。一番高い高山地帯では、木々が環境の厳しさを反映しています。ダケカンバは冬の雪の重みにより、曲がった腕の形で斜面に平行に成長しますが、ハイマツは標高に応じて背が低くなり、標高 2,700 メートルでは人の頭の高さほどですが、山頂では膝下の高さまで低くなります。

亜高山帯では木々がますます少なくなり、花が増えてきます。南アルプスの高山草原には非常に多様な花が生育しています。最もよく見られるのは、黄色のシナノキンバイ (*Trollius japonicus*) と白いハクサンイチゲ (*Anemone narcissiflora*) の2種です。